

# (みんなで) 支え合い

## 地域包括ケアシステム

高齢者が利用する「老人ホーム」や「デイサービス」。コロナ禍で面会などが難しくなった現在も、施設が閉鎖的な空間になることをさまざまな交流が防いでいます。今回はそんな交流の一つ「絵手紙」を紹介します。

### 絵手紙から生まれる時間

市内原田の老人ホーム「ちくしの荘」ではボランティアなどとの連携に取り組んでおり、その一つに「絵手紙ボランティア」との交流があります。入所する高齢者一人ひとりに絵手紙が送られ、その中には季節のあいさつや体を気遣う言葉などが添えられています。

届いた絵手紙は高齢者のそばで職員が読みあげ、会話を交わし、一人ひとりの気持ちに寄り添う時間となるように心掛けています。「この人はいつも送ってくれるもんね」と心待ちにする人、絵手

紙を大切そうに両手で持ち繰り返し読む人、会話はできなくてもじつと見つめる人など反応は人それぞれです。ある職員は「面会制限などが続く中、絵手紙を通じた交流や、つながりがあることに安心させているように感じます」と話します。

### 自分ができることを考えて

また昨年は原田小学校の3年生からも絵手紙が届きました。「体に気をつけてください」「夜が長くなりましたね」など語りかけるような言葉とともに色とりどりの季節の果物や風景が描かれています。

原田小学校では、総合的な学習の時間に「高齢者が住みやすいまちにするために自分ができること」を考え、取り組んでいます。昨年は感染症予防のため絵手紙を届けることに決め、子どもたちは、どうやったら気持ちが伝わるのか、相手を想像しながら描きました。学年主任の先生は「高齢者や職員の皆さんのコミュニケーションの役に立ててうれしいですね」と話します。

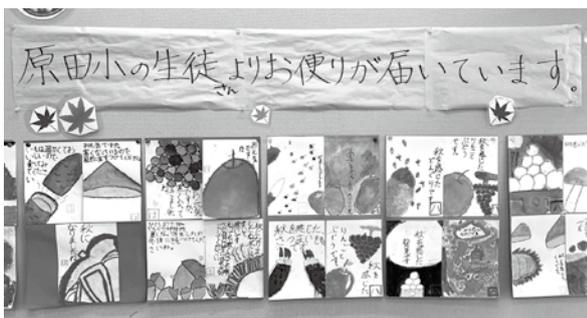
### 気持ちを伝え、日常を彩る

面と向かってではなくても、相手を思う気持ちを伝えることは、笑顔や、誰かと誰かの

会話を生み出します。高齢者の日常を彩るだけでなく、介護職員のやる気、新たなボランティアの広がりなどにもつながるさまざまな交流を、今後も紹介していきます。



高齢者の皆さんの心を穏やかにするボランティアからの絵手紙



ちくしの荘に飾られる原田小学校からの絵手紙

このように、既存の活動やつながりを大切にしつつ、地域に関わるさまざまな人や団体ができる範囲で支え合い、まちづくりが広がっていく姿は、まさに地域包括ケアシステムであり、市でもこのような取り組みが広がるよう努めています。

● 問い合わせ先 高齢者支援課